

# 市民の声・ちまたのニュース

第3号

2018年01月21日  
日本共産党根室市議団  
根室市宝林町4-203  
TEL 23-6023  
FAX 24-1684

## 戌年の今年一犬について

干支の最後から二番目に当たる戌年（いぬどし）なので、犬について書かれていたしんぶん「赤旗」毎日の記事を紹介します。



しんぶん「赤旗」の毎日版九日付の「校閲の目」に面白い記事が載っていました。

『かつて正月となると子どもたちが喜んで遊ぶ遊びといえば、すころく、こま回し、かるたでした。そのかるたで有名なのが「犬も歩けば棒に当たる」から始まる「犬棒かるた」。そもそも意味は、「用もないのにうろろる歩き回っていると災難に合う」だったといわれていました。それが、江戸中期になると「思いがけない幸運をつかむ」と言うような意味になったのだそうです。ところで、ことわざや慣

## 大晦日、孫が来ない

神家（私のいえ）は、毎年大晦日から三が日は娘一家（北広島）と息子（北見）から一族郎党が揃う賑やかなものなのです。

ところが、今回は孫娘が大学受験のため、下の男の孫（中2）だけが北広島からジツチのつくる「年越しラーメン」を楽しみに、初の一人旅で来ることになったのです。13時22分着の花咲線快速で到着ということで年寄り二人でむかえに根室駅へ。乗客が次々降りてくるのに孫がいない。スマホの持たない孫なので、どうしたのかと不安がよぎる。駅員に妻が詰問。すると駅員「池田の手前で特急が1時間半遅れている」とのこと。根室に着くのは16時になる。「JR問題」が色々話題になる昨今。何の表示もない根室駅の対応に怒り心頭の大晦日となった次第です。

## うでしよう！

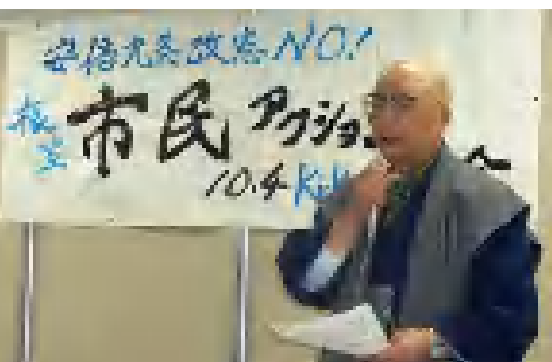
### 三千万人署名・みんなの力を出し合って・・・

いま、なぜ三千万人署名が提起されているのでしょうか？ それは言うまでもなく安倍政権の憲法九条改悪の発議が遅くとも今年中にされる戦後もつとも危険な歴史的時期をむかえつつあるからです。

2016年7月あの大橋巨泉氏がなくなりました。彼はなくなる前「週刊現代」の人気コラム「今週の遺言」を書き続けていたが、癌の闘病生活でこれ以上体力・気力が持たないとなりました。大橋巨泉氏の死後、まだ二年も経っていないこの時期、巨泉氏の指摘した状況、安倍晋三の野望である「戦前の日本復活」が現実のものとなりつつあります。だからこそも、一人ひとりの力は小さくてもみんなの力を合わせて三千万人署名を進め、安倍改悪NO！九条改悪発議にストップをかけることこそ最大緊急の課題となっています。

「安倍晋三の野望は恐ろしい」「巨泉氏の指摘」  
大橋巨泉氏は、「戦争を知っている人々が異口同音にこの政権の危険性を指摘するのはなぜなのか。戦前世代は『好戦政治家』に漂う戦前酷似の危ない臭いがする」と指摘、「僕はポピュリズムの権化のような安倍首相を全く信用しない。経済はムードをあおる手段にすぎず、本当にやりたいのは『憲法改悪』であり、戦争する国に変えることでしょう。法衣の下に鎧をきたような男の言うことにだまされてはなりません。」とあの人気コラムで警鐘を

鳴らし続けていました。  
大橋巨泉氏の死の前後に安倍政権は、特定秘密保護法、戦争法、共謀罪を強行成立させ、今度はいよいよ憲法九条改悪。  
（集会であいさつする「ねむる九条の会」細川憲了代表）



根室でも「ねむる九条の会」が総がかり行動根室実行委員会や市民団体、労働組合、政党などに呼びかけ、根室市全体で三千万人署名に見合う六千五百人以上の署名をやりきるため、去年十月四日「根室市民アクション・キックオフ集会」を開き、現在全市的に大運動を展開中です。みなさんも少しでも力を出して平和を守る運動に参加しましょうではありませんか！